

県は28日から県立高へ
の転入学手続きを開始。
小中学校は避難先の自治
体を原則としている。避

東日本大震災で県内に避難している親たちが新学期を目前に、子どもの就学先について決断を迫られている。28日発表された県の調査では、4割が県内の学校への転入学を希望。一方、仕事との兼ね合いなどで、決めかねている親も多い。

子どもは慣れ始めたが…

仕事、わが家 気掛かり

県内就学

新学期目前 悩む親

東日本大震災で見附市に避難している福島県の子ども28人。うち28人が保護者と共に、28日、通学する可能性のある市内の小中学校4校をそれぞれ訪問した。地元児童に歓迎されるなどして、学校の設備や授業の雰囲気を確かめた。このうち、中央公民館の親子は見附小への通学路を覚えるため、同小教論に引率されて歩いた。長岡市にある見附市海の家の避難している児童いた。

避難中の親子

見附 地元児童ら歓迎



パソコン学習に参加する福島県から避難した児童ら=28日、見附市学校町1の見附小学校

東日本大震災で見附市に避難している福島県の子ども28人が保護者と共に、28日、通学する可能性のある市内の小中学校4校をそれぞれ訪問した。地元児童に歓迎されるなどして、学校の設備や授業の雰囲気を確かめた。このうち、中央公民館の親子は見附小への通学路を覚えるため、同小教論に引率されて歩いた。長岡市にある見附市海の家の避難している児童いた。

泉田裕彦知事が29日前、東日本大震災で被災した福島県を訪ね、佐藤雄平県知事と面会することになった。本県への避難者の受け入れ状況について報告するとともに、見舞金300万円の目録を手渡す。

県によると28日現在、本県へ避難している県外被災者8千人余りのうち、約7900人が福島県からの避難者という。

県は児童生徒の転入学な

京電力福島第1原発から30km圏内。現時点では帰ろうとは思えない」という。県の調査では4割が「もう少し様子を見たい」などの理由で県内の就学を希望せず、2割弱が未定とした。

県が柏崎市、刈羽村で浪江町から、小学校新1年生、中高生の子どもも3人を連れ新潟市に避難した会社員尾崎義幸さんは、「やつと落ち着き、子どもたちも仲のよい子ができるたの

相馬市原町区は「やつと落ち着き、子どもたちも仲のよい子ができるたの」と語った。ただ授業を再開する

一方、原町区から長岡市に避難した会社員高野勝さん(47)は、現時点で小学生の娘2人の転入は消極的だ。

一方、原町区から長岡市に避難した会社員高野勝さん(47)は、現時点で小学生の娘2人の転入は消極的だ。

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県名取市で28日、ゆりが丘小や増田中など、休校していた市立小中学校のうち被

害の少なかった12校の授業が再開した。再会を果たした生徒らは「生きて

て良かった」と喜びを爆

増田中では午前8時すぎ、緑のジャージ姿の生徒が徒步や自転車で次々と門をくぐった。やや

緊張気味の表情は、仲間の姿を見つけると瞬く間に緩み、「また会えたね」と抱き合ったり、手を取り合つたりした。

小中12校

授業再開

宮城・名取市

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県名取市で28日、ゆりが丘小や増田中など、休校してい

た市立小中学校のうち被

害の少なかった12校の授

業が再開した。再会を果

たした生徒らは「生きて

て良かった」と喜びを爆

増田中では午前8時す

ぎ、緑のジャージ姿の

生徒が徒步や自転車で次

々と門をくぐった。やや

緊張気味の表情は、仲間

の姿を見つけると瞬く間

に緩み、「また会えたね

」と抱き合つたり、手

を取り合つたりした。